

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2018年7月9日発行 No.76

『すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。』

(コリントの信徒への手紙Ⅱ 第12章 8~10節)

<学内に集う願いの数々…。七夕祭の準備は万端!!の筈が豪雨災害でお祭もお流れに…>

先週のKIU キャンパス内は、華やかな飾りで彩られました!! 学生会主催の七夕祭に向けて、例年よりも多くの笹が設置された事から、多くの学生の素朴な願いが集まり、お祭り本番へのボルテージも急上昇!! となるはずだったのですが…。先週木曜ぐらいから西日本を覆っていた梅雨前線に南からの湿った空気が流れ込み、線状降水帯が形成された事で記録的豪雨が発生、西日本各地に河川の氾濫や土砂崩れなど、甚大な被害を引き起こす事になったのです。



例年より多く設置された笹飾り



七夕祭に向けて多くの願いを募る



留学生の教室前にも



思い思いの願いが綴られた短冊には KIUらしいものや嬉しいものも…



一番大きな短冊はコレ!?

大学が金・土曜と休講措置になった事で、七夕祭も今年は中止となりました。西日本を襲った豪雨、その爪痕は本当に酷く、週が明けた現在でも、亡くなられた方、そして不明者の数が増え続けており、被害の全容が掴めていない状況です。キリスト教センターでは、亡くなられた方々の魂の平安と、現在苦しい状況にある方々の癒しと導き、そして一日も早い復興を願って、昼の礼拝で心を一つに祈りを捧げています。皆様もぜひご協力ください。



一晩で生活を失った人が続出…

＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

7月2日（月）テーマ：「就職活動を通して学んだこと」 穠原 誉英（経済学部4年）

「今年の就職活動は超売り手市場」というニュースを聞いた私は「すぐに受かるだろう」と過信していた。しかし現実とは厳しいもの。残念な内容のメールが次々と届き、強い不安を覚えた。ゼミ担当の中村智彦先生に相談すると「大変だが、そんな時こそ自分と向き合うチャンスだ…」と言われた。改めて自分と対話してみると「謙虚さ」と「素直さ」が欠けていた事に気付いた。私にとって大切な事は、実は意外と身近な所、毎日通うチャペル入り口に掲げられている建学の精神「神を畏れ、人を恐れず、人に仕えよ」だ。この言葉を自分に言い聞かせながら就職活動を再開すると、不思議な事に結果は自然と表れた。自分にとって恥ずかしい失敗も、実は自分を成長させる大切なチャンスとなる。今回の学びや気づきを、ぜひこれからも活かしていきたい。

7月3日（火）テーマ：「神戸から世界へ」 藤倉 哲哉（経済学部）

先週末、このチャペルに「トワイライトベルズ」を迎えてチャリティコンサートが行われ、参加者からの献金がアフリカの難病ブルーリ潰瘍の子供たちをサポートするための基金として捧げられた。告知ボードに写っている2歳の女の子、その瞳を見る度に、実際にアフリカを訪れた時の事を思い出す。治療者も医療器具も足りていない厳しい環境で苦しむ子供たち（先述の女の子は既に他界している）を見た時、自分の中で確かな変化が起こった。それからKIUは学会を開き、サポートを続けこの難病に向き合い続けている。今年、50周年を迎える本学ではシンポジウム等を予定している。学生の皆さんもKIUの取り組みをぜひ知って欲しい。

7月4日（水）テーマ：「チコちゃんに叱られる!？」 野間 光顕（チャプレン）

最近、「チコちゃんに叱られる!」という番組が話題を集めている。“好奇心旺盛で物知りな5歳児”であるチコちゃんは、言われなければ気付かない身の周りの素朴な疑問を常に上から目線で質問してくる。しかも正解しないと「ボーッと生きてんじゃねーよ!」と怒られる。番組のもう一つの見所は、綿密な取材や実験によって答えを丁寧に導いている所だ。その結果、観終わった後には実生活の中でも身の周りに意識するようになる。慌しい社会に生きる私たちが、このような時こそ身の周りの物事の理由や意味を覚えてみる、その気づきによって得られる感謝や喜びは一人ひとりの歩みを明るく前向きなものにしてくれるのではないだろうか？

7月5日（木）テーマ：「わたしが道であり、真理であり、生命なのです」

内田 省司（日本国際キリスト教協会）

ギデオン協会は、無料の聖書配布を通して「人々をイエス・キリストの救いに導くこと」を唯一の目的とした団体である。具体的な活動としては、中学・高校・大学の学生に一冊一冊手渡したり、病院やホテルに寄贈する等の形をとっている。聖書は、人生を変える力を持った書物だ。ある男性が姉の信仰するキリスト教に強い反発を覚え、自分の信じる宗教とキリスト教の違いを明らかにし、批判するため聖書を読み始めた。その時、その男性が目にした聖句「私は道であり、真理であり、生命である」というヨハネ福音書の言葉がその男性を捕らえたのだった。彼は現在北海道で牧師をしている。このような喜びの言葉を世界に広めていきたい。

7月6日（金） ※この日は西日本を中心に発生した豪雨災害のため大学が全日休講となり、そのため昼の礼拝も行われませんでした。亡くなられた方、そして被災された方や避難されている方を覚え、チャペルでは昼礼拝で共に祈りを捧げています。皆様もお昼の一時、心を合わせて頂ければ幸いです。

（文責：野間 光顕）